

43

千代田区景観まちづくり重要物件

お茶の水橋

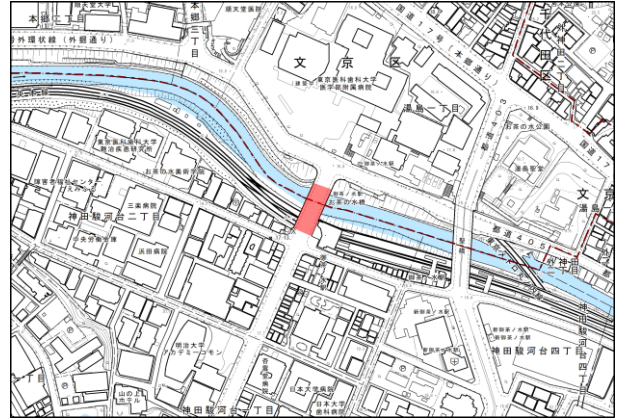
指定日 2007（平成 19）年 3 月 28 日

所在地 神田駿河台二丁目 3,6 番地先～文京区
湯島一丁目 5 番先（神田川）

設計者 -

竣工 1931（昭和 6）年 5 月

文化財等
指定状況 -



▲お茶の水橋全景

歴史・文化的特徴

お茶の水橋が架かる場所は神田川随一の渓谷地です。

東京府技師・原竜太設計の旧橋（上路トラス橋）は東京名物となっていました。

御茶ノ水の名称は徳川家康が茶の水を求めた高林寺の逸話に基づいており、橋名もこれに由来しています。

震災復興橋梁のひとつです。

意匠・構造の特徴

珍しいラーメンゲルバー構造の鋼製桁橋です。神田川を開削したことにより造り出された渓谷（通称「御茶ノ水谷」）と調和した外観となっています。

石積風の親柱が特徴的です。手すりは独特のデザインであり、橋桁の側面の色は緑色です。



◀お茶の水橋の親柱

周辺景観との関係

橋上は神田川の渓谷や JR 中央線、護岸の緑、相対する聖橋を望む絶好の眺望点となっています。

周辺は地形が開け、周囲から渓谷に調和した橋梁の姿を見ることができます。また、聖橋からは橋梁の印象的な全景を見ることができます。

御茶ノ水駅が渓谷の中ほどに設けられているため、駅ホームから橋梁を仰観することができます。電車からは、様々な角度から見え方が変化する橋梁を見ることができます。橋詰に御茶ノ水駅改札があり、歩行者の通行が多い橋です。文京区側から賑やかな学生街へのゲートとしての役割も演出しています。水面からは幾重にも並ぶゲルバー桁を見上げることができ、構造的迫力を感じます。